

縁を紡ぐ

一ものとの、人と人、人とのつながり

エニシ

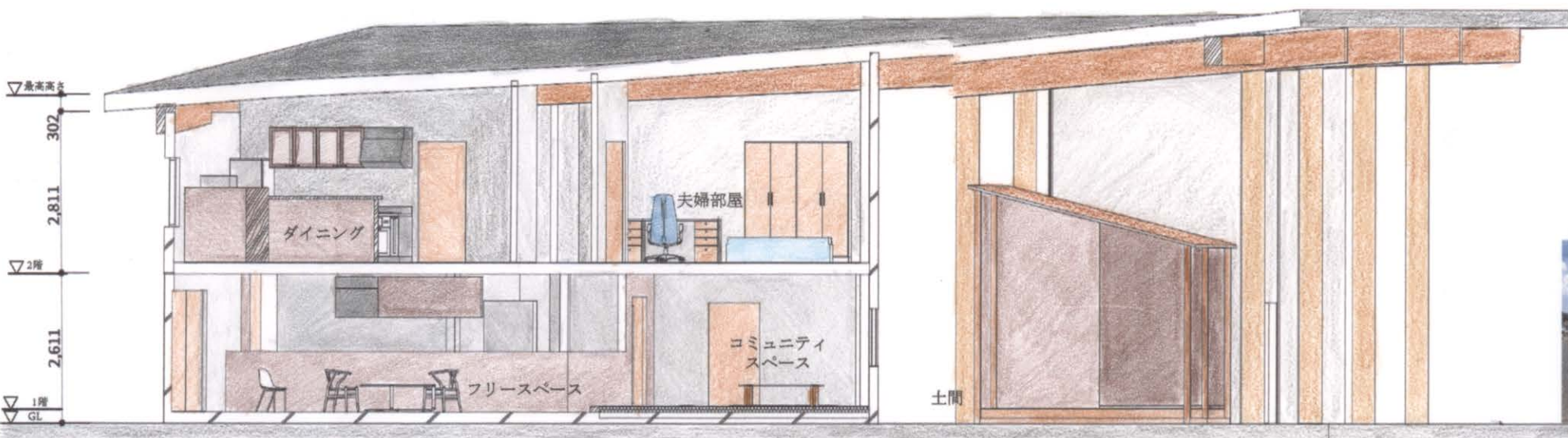
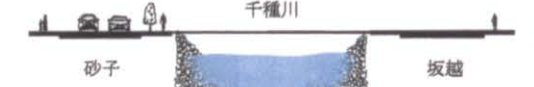
設計趣旨

兵庫県南西部にある赤穂市坂越。
この土地はかつて西廻り航路の北前船の寄船港があり港町として栄えた
“もの”の中継地である。
元来、人、海、海産物のつながりが強い町であった。
しかし現在はそれらの面影が薄くなっている。
これを踏まえて、人や海産物が集まる現代版の中継地となり
“つながり”を生む空間を提案する。

計画

人が少ないのは坂越に来る目的がないからではないかと考えた。
したがってこの提案では人が寄る目的となり、集まった人が滞在
できる空間を設計する。

坂越駅側の砂子には人や車が多かったが、千種川
を挟んで坂越には人が少なかった。



A-A'断面図 S=1/100



敷地図兼配置図 S=1/4000

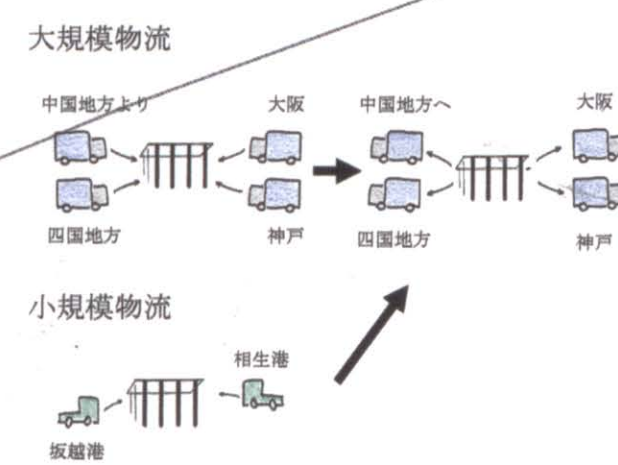
坂越の歴史

- 江戸 北前船の寄船港“もの”の中継地
物流をつなぐ土地
おもてなしの文化が根付く
- 明治 地域の人がとが
船祭り、町並み、神社など伝統をつないできた
- 令和 新たな
伝統を受け継ぎ、新たな形で“つなが”

中継地としての役割

ものとのつながり

倉庫：海産物の移動拠点となり一時的に保管を
する。大都市間に位置すること、高速道路のICに
近いという利点を活かした海産物の中継地は、ト
ラック1台ごとの移動距離を減らし効率化を図る。
また、地域の漁港からの海産物を他地域へ運搬
することも可能。



トラック
ドライバー

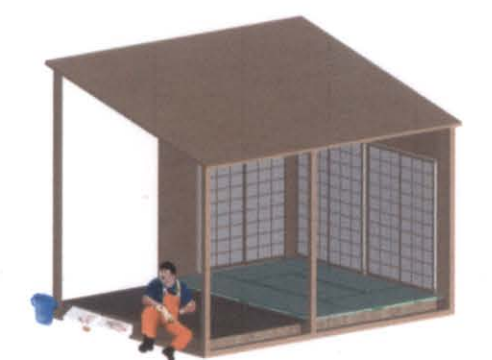
人と人をつなぐ

食堂：地域で運営する市民型の食堂。付近の漁
港でとれた海産物を使用し、地域の人、トラック
ドライバーなど訪れる全ての人向け料理を作り
フリースペース、和室などで食べる。寄船港とし
て来客をもてなすことに由来する。年齢、性別、
人種、職種、関係なく多くの人が訪れるため普段
関わることのない人と関わるきっかけとなる。ま
た、日本の鮮魚は外国人観光客が訪れる目的にも
なる。



人とのつながり

和室：和室は本来社会に開かれにくい、閉じた空間で
あると考える。しかし閉じた空間をあえて開いて使
うことで、つながりを生む新しい空間が生まれる。
地域に開いた広い土間を設け、そこに組み立て式の
和室を設置。用途に応じて移動、解体できるフレキ
シブルな空間となる。漁師は和室や土間で直接消費
者へ魚を売ることもできる。さまざまなつながり
を生む空間になる。



内装パース

利用

坂越船祭りの際には、
人々のたまり場となり
土間は船の待機場となる。
高齢者の方や観光客が和室から
祭りを見ることができる。

面積表

敷地面積	1394.26m ²
建築面積	670.74m ²
1階床面積	468.25m ² (土間含む) 203.16m ² (土間除く)
2階床面積	182.6m ²
延べ床面積	650.85m ² (土間含む)

家族構成



母(34) 娘(7) 娘(5) 父(36) 祖父(65) 祖母(66)
会計事務 幼稚園児 漁師
小学生 トラックドライバー 調理師

1階平面図 S=1/100

南立面図 S=1/100